

道にありて、道を外れる^{はず}

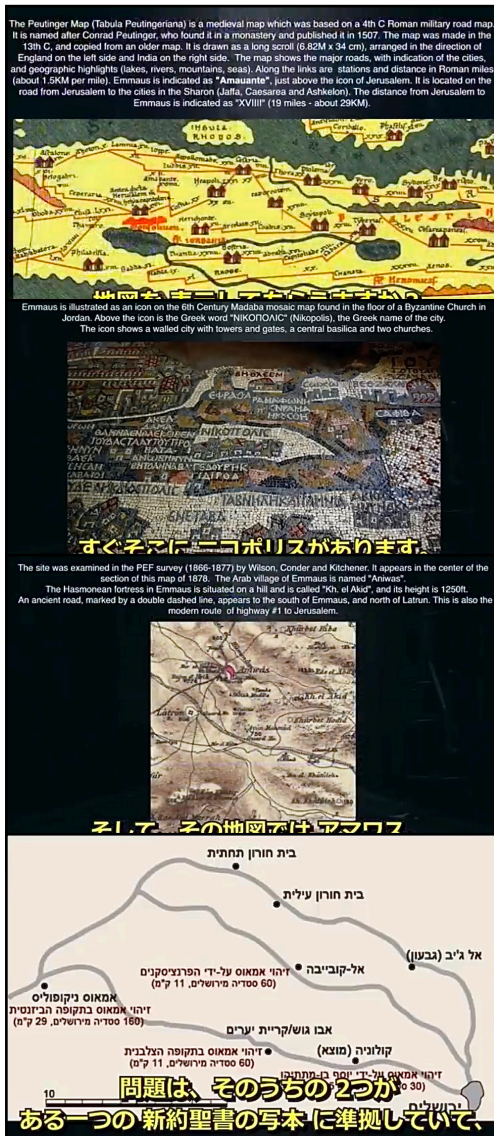
アミール・ツアルファティ

- イエスに従う人が、神の御言葉から外れることは可能か？ -

<https://youtu.be/8DyENhTKU60>

このメッセージのタイトルは、『道にありて、道を外れる^{はず}』です。これは、とても長い間、私の心の中で気になっていた題材です。私が信者になって、エマオに向かう道を歩いていた弟子たちの話を読んで以来です。私は、エマオへの道からわずか数キロのところで信じたのです。事実、私が新生した場所、私が、あのイエスの映画を見た後で、主を心の中に受け入れた場所。私は里親の家を追い出されてから、友達と一緒に住んでいて、文字通り、私は家の外に出たら、エマオへの道を歩き始めることができる場所、私は、そこに住んでいたのです。エマオへの道は、今でも残っています。これは、おとぎ話ではないということを知っておくことが大切です。これは概念上のものではありません。これは現実のことで、私のことが信じられなくても、これは信じた

方が良いでしょう。古代の地図を、実際に保存していた人がいたのです。西暦4世紀にさかのぼるものです。その地図を、お見せしたいと思えます。地図を表示してもらえますか。この地図は、信じられないかもしれませんが、元々はローマの兵士によって描かれたものです。それは8メートル…いいえ、7メートルです。幅が約7メートル。幅、約6.82メートル。高さは34センチ。それは、こちら側のイギリスから、向こう側のインドまで、ローマ帝国全体の地図でした。ここに表示しているのは、その当時のイスラエルの地のごく一部です。なぜお見せしたかったのかということ、アエリア・カピトリナと呼ばれる、ちょうどエルサレムがある場所に、アマアンテがあります。それは、今日のエマオです。次のスライドでは、ヨルダンのマダバにある教会の床に、エルサレムがそこにあって、エルサレムの隣に、はっきりと、すぐそこにニコポリスがあります。勝利の街、それが、その街のギリシャ語の名前でした。また、1800年代の地図もあります。1866年から1877年までのものです。そして、その地図ではアマウス。これらは全部、ある特定の場所、ユダヤのものであった特定の村のことを指しているのです。そして、それは間違いなく聖書の中で言及されているものです。問題は、イスラエルには、エマオとして特定されている場所が3つあることです。問題は、そのうちの2つが、あるひとつの新約聖書の写本に準拠して、他の訳本が160スタディア（約29km）と言っているのに対し、それは60スタディア（約11km）と言っています。160という数字をあげているものは数の上では少ないのですが、それらは最も原本に近く、信憑性の高いものです。シナイ写本がその例です。私の言いたいことは、現実の場所があるということ、現実の道があって、現実の村があるということです。そして、本物のユダヤ人の墓が現実に見つかっています。そして、その場所は紀元前165年にギリシャ軍に対するユダのマカバイ戦争が行われた場所となっています。そこで、彼らは大勝利を治めました。ちなみに、エマオは紀元前4年にユダヤ人がローマ軍駐屯地を攻撃した後、ローマによって壊滅させられ、焼き払われました。そして、西暦66年に再建されたエマオは、小国家の町となりました。皆さん、そこにあった村が今もあり、その村に通じる道が、今もあります。ギリシャの勝利の街になる前は、そこはユダヤ人の地であったのであり、後に、そこはキリスト教の場所、司教管区となりました。その後、言うまでもなく、今日では遺跡発掘作業によって、その現場が掘り起こされています。ともあれ、ここはルカの福音書24章の話に関連している場所です。その話を一緒に見ていきましょう。（ルカ24章13節から）



ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れた、エマオという村に行く途中であった。

またしても、この11キロというのは、60スタディアに基づいています。

そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。

二人の弟子がエルサレムを^た発ちました。そこで、二人の弟子はエルサレムから一緒に歩いていて、彼らはエルサレムから遠く離れた村まで歩いて行こうとしていました。彼らは互いに話し合っているのですが、あきらかに彼らは沈んだ顔つきをしています。これは日曜日の朝です。これは御使いが、すでに「(イエスは)ここにおられません。よみがえられたのです」と言った後のことです。これは、墓が空であることが宣言された後のことです。そして、これはあの過越の出来事が終わった後のことです。彼らは、墓が空であることを知った上でエルサレムを去りました。彼らは歩きながら話していて、悲しんでいます。そこにイエスが現れます。「やあ、君たち。クムスタカ？マブチ」それで…、カババヤンって、どう言ったらいい？カババヤン？彼らは、彼のカババヤン（同胞）でした。イエスは彼らに尋ねています。「何の話をしているんですか？なんでそんなに悲しんでいるんですか？」すると、彼らはイエスを見て言います。「今さら何を言ってるんです？あなたはどこの人？どこの惑星から来たのですか。エルサレムで起こったことですよ！その話をしているんです」イエスは彼らに尋ねられます。「どんなことですか？」彼らは言います。「ナザレ人イエスのことです！」誰かと一緒に歩いていて、あなたのことが話題になっているのに、その人には、それがあなただとは分からないというのは、面白いと思いませんか？そして、イエスは「話を続けて」と言います。「なんの事ですか？」彼らは言いました。

「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」イエスが「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、…預言者でした。」見てください。彼らは過去形で話しています。「預言者でした」「この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。しかし私たちは、」ここに注目してください。「この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだと望みをかけていました。」

彼らにしてみれば、「我々はあの賭^{かけ}に負けたんだ」3年間、我々はその人物がメシアだと思って、全財産を投入してきた。3年間、我々は家族も友人も社会生活も収入源も、何もかも捨ててきた。3年間、我々は彼がイスラエルを贖ってくれると信じ込まされてきた。彼は預言者であり、油注がれた者、マシアック（メシア）である、と。間違っただけではありません。彼らは、まだイエスが誰であるかを理解していません。彼らは、まだイエスの神性を理解していません。彼らは、彼の事を、神がイスラエルを救うために遣わされた人間、マシアックだと思っています。皆さんは、ユダヤ人にとって十字架は気分を害するものだとすることを理解しなければなりません。なぜなら、申命記とレビ記には、こうあるからです。「木につるされた者は、神にのろわれた者」木につるされるということは、神の呪いです。これはユダヤ人が決してしなかったことです。あまりにも陰惨だから。それは、呪われた人のためのものでした。それなのに、メシアが木の上に？こんなに、がっかりさせられたことはない。そして、彼らは話をしている間も、おそらくユダヤ人らしく、感情をむき出しにしていたでしょう。そして、イエスはご承知の通り、冷静です。「何を話しているのですか？」彼らは言います。「それだけじゃないんですよ。他に何があったか知りたい？」イエスは、「ああ、知らないんだ。何があったんですか？」「じゃあ、教えてあげましょう」

仲間の女たちが私たちに驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言った通りで、イエスさまは見当たらなかった、と言うのです。」

つまり、彼らはイエスに、イエスは墓の中にいないと告げているんです。イエスは、彼らにこう言っても良かったでしょう。「あたりまえじゃないか。わたしは、あなたの目の前に立っているのだ」彼らは怒りを感じ、悲しみ、がっかりしています。そして、彼らは恥じ入っています。感情的になっているユダヤ人を見たことがありますか？「なんてこった！」そして、イエスは彼らを見えています。ふむ…

「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」

イエスは今、何と言われましたか？あなたの問題は、あなたが信じないことです。あなたの問題は、あなたが何を信じないことですか？「すべて」と言ってください。（聴衆：「すべて」）もう一度、大きな声で！（聴衆：「すべて！」）そこなんです。当時のユダヤ人は、メシアについて自分たちが信じたいことを慎重に選んでいたんです。そして、彼らの頭の中にあるメシアの姿やイメージに合わないものを、とても、とても見事に無視していました。

「イザヤ書53章？そこは、やめておきましょう。うーん、いや、いや、いや、いや、いや。」

「王として来る？—そうです。馬に乗って？—はい。」

「見よ、あなたの王がロバに乗って来られる。—だめ、だめ、だめ。」

お分かりですか？彼らは、御言葉全体を聞かなかったわけではなく、自分たちが信じたいものを選んだのです。自分たちの理論、自分たちのメシアのイメージに合うものを。そして、残りのすべてを無視することにし、残りのすべてを信じなかったのです。そして、彼らがすべてを読んだとしても、彼らが信じたこともあれば、信じなかったこともありました。ところで、彼らが最も無視をしているとイエスが指摘されている書は、どれでしょうか？預言者の書です。聖書預言のカンファレンスが非常に重要なのは、これが、弟子だと自称する人たちが完全に無視するところだからです。そして、イエスはエマオへ行く途上で、ご自分の弟子たちに語っておられるのです。イエスは、ラビやパリサイ人やサドカイ人のところに行って、「ああ、愚かな者たちよ」と言っているではありません。「愚かな者たちよ」とは、彼の教会、彼に従う者たち、彼の弟子たちに向けられたものなのです。これは、私たち全員のことです。そして、この最も美しい一節を見てください。

イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、「すべて」と言ってください。（聴衆：「すべて」）ご自分について書いてある事がらを彼らに解き明かされた。（ルカ24章13節から27節）

彼らは怒りを覚えながら歩いているのですが、イエスは彼らに言われます。「では、最初から始めよう。それでどうかな？初めに、神が天と地を創造した」彼らは、たぶんお互いに顔を見合わせて、「あー、はい？それから？」「そこで神は、『光よ。あれ』と仰せられた」「それで？」「しかし、神は四日目にやっと、太陽と月と星を創造された。では、第一日目の世の光とは、誰だったのでしょか？」「ああ、そうですね。続けてください」そして、イエスは創世記3章、6章、11章を説明されます。そして、アブラハムの話もされ、彼が信仰によって義とされたことを説明されます。そのように延々と続けていくと、彼らは気がつきます。「うわあ、全部知らなかった」実際には、どこかで聞いたことがあったが、文字通りの意味だとは思わなかった。彼らは、事実には惑わされないようにしていたのです。御使いたちは、イエスは生きておられると言いました。それなのに、彼らはイエスが死んでいるかのようにふるまっています。彼らは怒り、混乱し、とても悲しい思いをしています。

それでも足りないなら、これを見てください。イエスにとって重要だったのは、それらのことが、すべて起こるべきであったことを、ただ彼らに告げるだけではありません。イエスにとって重要だったのは、彼の3年間の公生涯において、預言者たちが彼について書いていた、すべてのことを成就させることが重要でした。イエスがエマオへの途上で、「そうだった。わたしはこれと、これと、あれをしなくてははいけない」と思い出したわけではありません。3年間の公生涯の間を通してです。それゆえ、福音書の筆者たちが、以下のことを強調することが重要でした。彼がこれらを行ったのは、預言者たちによって書かれたことを成就させるためでした。マタイの福音書1章22節から23節。

このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。『見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』（神は私たちとともにおられる）

言うまでもなく、イザヤ書7章14節です。周知の通りです。マタイの福音書2章14節から15節。

そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者[ホセア]を通して、『わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。』と言われた事が成就するためであった。

そして、それでも足りないとすれば、マタイ4章12節から17節。

ヨハネが捕らえられたと聞いてイエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まれた。ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの街である。これは、預言者イザヤを通して言われた事が、成就するためであった。『ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。』この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。なんと？「悔い改めなさい。」

今日の世界中の教会の80%で禁止されている言葉です。悔い改めの話はするな。
「天の御国が近づいたから。」とイエスは言われます。マタイ8章16節から17節。

夕方になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れて来た。そこで、イエスはみことばをもって霊どもを追い出し、また病気の人々をみなお直しになった。これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。『彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。』

福音書の筆者は、イザヤ書53章の聖書預言の成就として、イエスがこれらをした事を認めています。マタイ13章12節から15節。

というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。』

などなど。彼は、預言者イザヤがそう言ったのであり、今、それが成就しているのだと言っているのです。マタイ21章2節から5節。

（イエスは）言われた。『「向こうの村へ行きなさい。そうするとすぐに、ろばがつながれていて、いっしょにろばの子がいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。もしだれかが何か言ったら、「主がお入り用なのです。」と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。』これは、預言者[ゼカリヤ]を通して言われた事が成就するために起こったのである。『シオンの娘に伝えなさい。「見よ。あなたの王が、あなたのところにお見えになる。柔和で、ろばの背に乗って、それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』』

マタイ27章3節から10節。

そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、『私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして。』と言った。しかし、彼らは、『私たちの知ったことか。自分で始末することだ。』と言った。それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。祭司長たちは銀貨を取って、『これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから。』と言った。彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。『彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。』

皆さん、皆さんが理解されることを願います。十字架も、復活も、すべてのことは、みな、預言者たちの言ったことが成就されるためだったのです。だから、ルカの福音書24章に戻ると、ルカ24章25節。

イエスは言われた。『ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。』

これは非常に深刻な告発です。それも不信心な世に向けてではなく、弟子たちに対してです。そして、私は、今日もまさに同じことだと思います。教会は新しい啓示や、聖書に載ってもいないような新しいことに苦しめられています。あるいは、自分に都合の良いことだけを選んで、私たちがこうなるべきだと思っていることに合致しないことを除外します。私は、任命された息子が任命された父親に昇格して、今、息子の席に空気が出たと聞いています。(聴衆とのやりとり中) ああ、落胆した息子ですか? ああ、ごめん、ごめん、ごめん。やっと分かりました。皆さん、100万人の人が彼に従っています。100万人です。それ以上かもしれない。ダバオが新しいエルサレムになったらいいです。ダバオに対して、何も文句はありませんよ。美しい所です。しかし、これは新しいエルサレムではありません。私が最後に調べてみた新しいエルサレムの様子とは違っています。美しい庭園はあるかもしれませんが、真珠やダイヤモンドは? 純金の大通りは? えー、それなら彼の円天井まるてんじょうにありますよ。皆さん、新しいエルサレムには、家用ジェットを2機、ヘリコプターを3機も持っているような支配者はいません。皆さん、今イエスが語っているのは、預言者たちが書いたことに対する信仰の欠如です。私は、皆さん方全員に呼びかけたいと思います。あなたが非聖書的な幻覚、「新しい啓示」や、夢などに執着たひし始める度に、あなたは聖書をありのままに受け入れることができなくなります。そうして、あなたはつまるどころ、聖書の権威を疑うようになります。イスラエルはいま、アメリカや世界の残りの国々を苦しめているのと同じもので苦しんでいます。新使徒改革(NAR)と呼ばれる新しい動きです。1世紀にいた使徒たちの存在に匹敵する、新しい世代の使徒が必要だという人たちです。私たちの世界を「使徒の働き」にあった状態に戻すために。彼らはエルサレムの使徒でなければならない。彼らはユダヤ人の血を引いていなければならない。彼らが、その地位を回復し、エルサレムが再び権威ある場所となって初めて、我々はイエスが地上に戻ってくるための場所を準備する。私が最後に確認した所では、「わたしは、あなたがたのために場所を整えに行く」と言われたのはイエスであって、「あなたがたは、わたしのために場所を整えてください」と言われたものではありません。預言者たちが書いたことはすべて成就しなければならず、いかなる「新しい啓示」にも依存しない、という基本的な理解が不足しています。誰も朝起きて、こんなふうに見える人はいません。「神が私に語りかけられました。神はご計画を変えようとしておられます」まあ、そう言える人はいます。彼は地震は止めましたが、火山は止めませんでした。他のことはどうでしょうね。聞いてください! 神の言葉は昨日も今日も永遠に同じです。第2コリント11章4節。

ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音を受けたりするときも、あなたがたはみごとにこらえているからです。

第2コリント11章12節から15節。

しかし、私は、今していることを今後も、し続けるつもりです。それは、私たちと同じように誇るところがあるとみなされる機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切ってしまうためです。こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。

キリストの使徒を名乗る人たちがいます。キリストは彼らを知りません。彼らは異なる福音と異なる現実を説いています。そして、それは神の御言葉と矛盾するものです。そして今晚、このカンファレンスから1つだけ皆さんに持って帰ってもらいたいものがあるとすれば、この本（聖書）を変えたり、置き換えたり、追加したりすることのできるものは何もないということです。今日の教会の最大の問題の1つは、これ（聖書）が十分ではないということです。“それだけでは足りない。だから、もっと経験が必要だ。”そして、いつの間にか、経験があなたの信じるものとなり、神の御言葉ではなくなってしまいます。ガラテヤ書1章6節から9節。

私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者は…、何と？ギリシャ語では、アナテマ、呪われる。

だから、ダバオ市の誰であろうと、「私のところに御使いが来て、今や私はこれこれで、それぞれだと告げられた」と言うことはできません。なぜなら、聖書には「天の御使いがあなたに何かを伝えに来るようなことがあっても、」と書いてあるからです。もしそれが別の異なる福音であり、御子イエスでないならば、その人は呪われなければならない。アナテマ。

ガラテヤ書1章6節から9節。

私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者は…。何と？のろわれるべきです。

ガラテヤ書1章11節から12節。

兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。ただ…。何と？何ですか？何によって？イエス・キリストの啓示によって受けたのです。

皆さん、使徒パウロは、特定の司教や使徒によって率いられる聖書学派の中で、御言葉を学ぶ者ではありませんでした。パウロは使徒であり、教会の創立者のひとりです。そして聖書によれば、教会は使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身が、その礎石です。これらの使徒たちは、イエスから直接受けたのです。彼らはイエスを見て、イエスの言葉を聞き、物事が起こった時に、彼らはその場にいたのです。よって、彼らはそれを書いたのです。いいですか？1世紀の使徒たちは、聖書を書いたのです。だから、1世紀の使徒にあたる新世代が出て来るとは言えないのです。なぜなら、そう言うならば、「彼らは聖書を書く」と言うことになるからです。私たちは教会です。私たちは、使徒や預言者ではありません。さて、「今も預言の賜物は有効ですか？」もちろんです。

「人々は、まだ使徒として送られていますか？」もちろん！しかし、あなたは自分のことを1世紀の使徒とは呼ばないのです。そして、新使徒改革を開始して、人々を道連れにして、イエスがいつ帰ってくるかは、私たち次第だ、と信じさせたりしないのです。なぜなら、主が戻って来るためには、我々がまず世界を準備しなければならないから、と。イエスはすでに、世界がどのようになるのかを教えてくれているのに。そして、イエスは実際におっしゃいます。「心配することはない。わたしは来るから。わたしは、あなたがたのために場所を整えよう」ここではありません。空港からここまでのバイパス道路は、もう必要ありません。「わたしは、あなたがたのために場所を整えよう」どこに？「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります」聖書には、「ダバオ市には、住まいがたくさんある」

とは書かれていません。イエスは言われます。「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。そして、わたしはまた来ます…」何のために？何をするために？「あなたがたをわたしのもとに迎えるために」あなたが、わたしを迎えるのではない。あなたがここでお祝いをしながらワーワーと待っていたら、イエスが来るのではありません。違います。定められた時に…、ちなみに、それは定められた時です。定められた時とは、神が知っておられるという事です。定められた時に、処女がみごもりました。定められた時に、イエスがお生まれになりました。定められた時に、彼は再び御座を外^{はず}されます。そして聖書には、第1テサロニケに「主は下って来られる」と書かれています。私たちは昇らなければなりません。主は下って来られなければならない、私たちが主に会うのは…、どこですか？空中です。「これは受け入れられないな」と思っている人もいるでしょう。だからこそ、第1コリント15章に書かれているのです。

聞きなさい。わたしはあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、つまり、死ぬのではなく、「みな…」なんですか？「変えられるのです。」（第1コリント15章51節）

みなさん、ご自分を見てください。みなさん全員が、新しい体を受け取るのです。（聴衆：「イエーイ！」）そうそう、みなさんの中には、こんな人もいられるでしょう。「私の体のどこがダメなんだ？オレは気に入ってるんだよ。1日5回ジムに行って、食べ物にも気をつけるし、運動しているんだよ」はい、そうですね。でも、スママセンね。健康的なライフスタイルを保たないように勤めているわけではありませんよ。でも、健康的な生活しておくのは、ここにいる間はいいですが、この体を持って天国に行くわけじゃないんです。これは墮落した罪深い体であり、人は天に移されるためには朽ちないものを着なければなりません。聖書はヨハネの福音書7章16節から18節で、こう言っています。

イエスは彼らに答えて言われた。『わたしの教えは、わたしのもではなく、わたしを遣わした方のものです。だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。自分から語る者は、自分の栄光を求めます。

（ヨハネ7章16節から18節）

だれでも、何か別の事を説いている人は、人々の救いを求めているのではなく、自分の栄光を求めているのです。別の福音を説いている人はだれでも、富を求めています。プライドのため。有名になりたいんです。名前は挙げませんが、ある牧師がいます。アメリカの偉大なテキサス州の牧師です。彼は、その所有財産で第一位になりました。信じられないような数字で、何百万ドルという額を持っています。彼は怒っていました。なぜだか分かりますか？数字が正確ではなかったからです。彼は、もっと持っていたんです。彼はリストに挙げられたからといって怒っていたのではありません。“おい、俺はそれ以上のものを持っているんだぞ。フンッ。”
ローマ書16章17節。

兄弟たち。私はあなたがたに願います。分裂とつまづきを引き起こす人たちを警戒してください。それは何にそむいている、と？あなたがたの学んだ教えにそむいて、それから何と？彼らから遠ざかりなさい。（ローマ16章17節）
こういう人たちはソーシャルメディアでは一番活躍しています。テレビでは最高の存在です。彼らはラジオ界では最高の存在です。彼らは注目されることを求めていて、だれもが彼らを避けるどころか、彼らにあらん限りの注目を与えています。彼らから遠ざかりなさい。第1テモテ4章13、16節。

私が行くまで、何と？聖書の朗読と…、ちなみに聖書の公開朗読です。勧めと…、何に？教えとに専念しなさい。（第1テモテ4章13、16） 調和を保つために、教義が妥協されることなど、あり得ません。さっき聞きましたが…、私たちはマニラの、ある教会のそばを通りかかっていました。看板に何とありましたっけ？今年2020年、エキュメニズムの年、対話、宗教間対話、それから…、何ですか？異宗教間対話の年。教義は重要ではない。私たちは皆、同じ神を崇拝している。手をつないで、クンバヤを歌おう！何の話をするんですか？イエスが来られたのが律法や預言者を廃棄するためではなく、成就するためだったのなら、何が問題なのでしょう？イエスは新しいものを提供したのではありません。彼は、神の要求を満たすために来られたのです。神の御言葉の中には良くないものや、真実でもないものはありません。聖なるレベルに達することができないのは私たちであり、それゆえにイエスが来て、私た

ちのために成就しなければなりません。イエスは、それまでの神の御心に全くかなわないものをもたらしてきたわけではありません。創世記3章においてさえも、神は愛です。なぜなら、神はアダムとエバを殺すべきだったのに、そうならなかったからです。神は、「食べたら必ず死ぬ」と彼らに約束されたんですよ。覚えてますか？神は彼らを殺されましたか？—いいえ。神はすでに、その時、そこで、驚くべき恵み、愛、あわれみを行使されました。マタイ5章17節から20節。

わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思ってはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。だから、戒めのうち最も小さいものの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、入れません。

(マタイ5章17節から20節)

律法学者やパリサイ人は、自分自身の義を確立しようとしています。パウロがそう言ったのです。あなたが自分では自分を救うことができないことを理解しない限り…、ちなみに、それが十字架に対してユダヤ人が持っている問題です。十字架に関してユダヤ人が持っている第一の、そして最も重要な問題は、十字架は彼らではなく、それは、あそこにあるということです。それゆえ、すべては十字架の上であり、彼らが自分を救うために自分でできることは何もないのです。それは問題なんです。あなたが宗教熱心ならば、そして、人々は様々な聖句を集めて、その文脈を無視して、メシアについての不正確なイメージを持っています。それこそが、1世紀のユダヤ人に起こったことなんです。彼らは、メシアの初臨がいかなるものであるべきかをメシアの再臨と混同し、そういうわけで、「私は今日までここで待っているのだ。彼は馬に乗って来られるはずだ。彼は私たちの敵を滅ぼされ、エルサレムから治められるはずだ。神殿があるはずで、死者からの復活があるはずだ」それらはみんな、すべてのユダヤ人が待ち望んでいることです。彼は初臨を見逃したのです。預言者たちが言ったことをすべて信じなかったためです。イエスと共に歩んだ弟子たちには、理解が欠けていました。メシアがイスラエルを贖う前に、彼はまず苦しみを受け、殺され、三日目に復活しなければならぬことの必要性について。ペテロでさえ、…みなさんが覚えているなら、ペテロはイエスがそう言ったことで、イエスを叱責したのです。ペテロは2分前に、「あなたは生ける神の子です」と認めただけで、彼はとても良い気分、自分はとても特別な存在だと思い、こんなふう歩いていました。「あのね、御父はそれを私に示されたんだ。君じゃなくて、私にね。彼と話したいのなら、まず私のところに来なさい」それから、イエスは言い始められました。マタイ16章21節から23節。

その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、(行かなければならぬ)「ねばならない」と言ってください。(聴衆：「ねばならない」)彼は、そうしなければなりません。このセッションから、みなさんに覚えておいてほしい言葉が2つあります。「すべて」のことは、成就されなければならぬ。それから「ねばならない」。なぜなら、彼は「エルサレムに行」かなければならず、「長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け」ねばならず、「殺され」ねばならず、「そして三日目によみがえらなければならぬことを弟子たちに示し始められた。」しかし、ペテロはそのようには見ていませんでした。するとペテロは、イエスを引き寄せて、「イエス様…」ペテロはガリラヤの漁師です。「ちょっと、イエス様。こっちに来てくれないかな。何を言っているんです。そんなこと、言っちゃいけません！あなたはメシアなんです！私はあなたを当てにしているんですよ。王になって、馬に乗って、ローマを打ち負かしてくれるのを。主よ。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。あなたは死んではいけませんよ。これは何です。何を言っているんです？」すると、イエスは彼に言われました。「あなたは状況を変えたいと思っているのか？だれが状況を変えたいか知っているか？ペテロよ。わたしをお前のために死なせたくないのが誰か、知っているかい？サタンだ。」だから「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。」わたしが一度目にこの世に来たのは、あなたがたが自分の罪の中で朽ちていくのを見ながら、座って君臨するためではない。わたしが来たのは、あなたがたにわたしのいのちを与えるためだ。ペテロよ。あなたが永遠のいのちを持つことができるためだ。「あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」気をつけなさい。人のことを心に留めてはいけません。(マタイ16章21節から23節)

忘れないでください。イスラエルに迫っている巨大な苦しみについての理解不足が、（それが最終的に、彼らの救いにつながるものですが）この現代の「使徒たち」のものなのです。これらの使徒たちは、イスラエルに大きなリバイバルが起り、やがてはそれがイエスの再臨につながると言っています。聖書には、「ヤコブの苦難」と呼ばれる大患難があると言っているのに。彼らが国になってから見たこともないようなものだ、と。しかし聖書によると、神は最終的に彼らをそこから救い出されます。しかし、彼らがやっと国としてイエスを受け入れるのは、イエスが地上に戻ってくるのを彼らが見る時です。聖書はゼカリヤ書の中で、こう言っています。彼らは、自分たちが突き刺した者を仰ぎ見、…激しく泣く。

エレミヤは、そのことについて語りました。エレミヤ書30章5節から7節。

おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があって平安はない。

これからの新しい使徒たちは、すべてがどんどん良くなる、素晴らしくなる、と言っています。平和だ、安全だ。私たちは皆、これが間違っていると分かっているのに。エレミヤは言います。

おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があって平安はない。男が子を産めるか、さあ、尋ねてみよ。わたしが見るのに、なぜ、男がみな、産婦のように腰に手を当てているのか。

「うわああああ」演技が下手なんですけど、陣痛の始まった状態がどんなのか分かりませんから。女性のみなさんは、陣痛を経験された時に、男性が今、同じことをしているのを想像してみてください。耐えがたい痛み。そして、みな顔が青く変わっています。私たちは女性のように痛みを我慢できません。女性のみなさんは、男性の私たちよりも強いんです。だから神は、みなさんに産みの苦しみを与えたのであって、私たちにではありません。私たちは、みんな分娩台の上で死んでしまうでしょう。本当です。男性は女性ほど苦痛に耐えられないんです。女性はみんな、「言ったでしょ！」といった具合です。男性は…「あっ、ごめんなさい」。そして、エレミヤは言いました。

ああ。その日は大なる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。ありがたいことに、しかし彼はそれから救われる。(エレミヤ30章5節から7節)

ホセア書5章15節。ホセアは、イエスの言葉を語っています。

彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻ってしよう。

どうやって？いつ？ユダヤ人は、どのようにして再び主の顔を慕い求めるのでしょうか。なにが彼らを悔い改めに導くのでしょうか？素晴らしい状況でしょうか？

彼らは苦しみながら、わたしを探し求めよう。(ホセア5章15節)

使徒の地位を回復することの必要性について、新しい啓示を受けたと公言する人たちがいます。それがイスラエルの救いとイエスが地上に戻られるための鍵である、と。それが新使徒改革運動(NAR)です。私は皆さんに言いたいです。人々は、ものすごくがっかりするでしょう。墓がもう空っぽだったのに、エマオへの途上にいた二人の弟子の失望、混乱、怒り、悲しみ。御使いは彼らに言ってありました。「彼は復活して、生きておられる」と。それは、これらの新しい使徒たちに希望を託した人々の失望に比べれば、何のことはないでしょう。皆さんに申し上げたいのですが、私は個人的に、以下のような人たちを知っています。ブラッド・ムーン(月蝕)があった時にイエスが帰ってくると信じていた人たち。シュミータの年(安息年)に、イエスが戻って来ると信じていた人たち。天に黙示録12章のしるしが現れる時に、イエスが戻って来ると信じた人たち。そして、イエスが戻って来られるのは、特定のことが成就する時…。皆さん、聞いてください。彼らは文脈を無視します。ブラッド・ムーンは10年ごとに、世界のどこかで、ほぼ毎年のように起こります。そして、これらの人々はとても失望しています。私は彼らと話したんです。当時、「黙示録12章のしるし」の映画を撮るためにイスラエルに来た会社がありました。そのしるしは、二年前に起こりま

した。そして、だれもがイエスが戻って来るか、何か素晴らしい事が起こると確信していました。パーティーを台無しにしたのは私だけでした。「みんな、御言葉を見なくちゃ！」その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。私たちはそのようなものを探し求めるべきではありません。私たちは、2000年前にパウロがそうであったように準備をして、用意ができていなければなりません。パウロは言いました。「キリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引きあげられ、空中で主と会うのです。」すべてのクリスチャンが、そう言うべきです。預言者の言葉は、新しい「霊的な啓示」が取り消すことのできるものでしょうか。箴言30章6節。

神のことばにつけ足しをしてはならない。神が、あなたを責めないように、あなたがまやかし者とされないように。
(箴言30章6節)

黙示録22章18節から19節。

私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

(黙示録22章18節から19節)

言い換えれば、みなさん。あなたが救いを失うという訳ではないんです。あなたは、救われていないかもしれませんが。あなたが神の御言葉ではないものに従ったり、信じたりしているだけならば。私たちは、預言者たちが起こらなければならぬと記したいくつかの出来事を省略できるでしょうか？教会の携挙。大患難。イエスが聖徒たちと共に地上に戻られること。イスラエルの国家的救済。千年王国。裁きの大きな白い御座。新しいエルサレム。起こらなければならぬ物事があり、それらは神の定められた時に、神の秩序の中で起こるのです。それらのことが、あまり美しく聞こえないからといって、それらを変更したり、そのいくつかを省略したりすることは、私たちの役目ではありません。すみません。イエスが死ななければならぬと弟子たちが聞いた時、それは美しいことのように聞こえませんでした。しかしイエスは、そのことを面と向かって、彼らに告げなければならぬませんでした。彼らは真実を知らなければならぬませんでした。とても面白いのは、イエスが復活された後で、彼らと再会して、彼らと話をされた時、彼が去る前に、みんなを集めて最初に言われたことの一つに、こう言われたことです。

「わたしはあなたに説明しなければならぬ。わたしは苦しまなければならぬ。苦しみのことを、あなたがたは理解していない。死のことを、あなたがたは理解していない。わたしはイエスだ。わたしはイエシュアだ。わたしはあなたの救いである。わたしは、あなたがたが三年間一緒に歩いてきた者だ。別人ではない。わたしは死ななければならぬ。わたしは苦しまなければならぬ。かっこよくないし、きれいでもないし、すばらしくもない。それが現実なのだ。あなたがたは罪人なのだ。あなたは死に値する。そして、わたしはあなたがたの代わりに苦しんで死ななければならぬ」

他に解決策があるとすれば、見てみましょう。イエスはゲッセマネの園で言いました。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」しかし、彼はそれができないことを悟られました。「わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください」皆さんは、イエスが代わりに死んでくださってよかったと思いませんか？

今日の教会の役割は、この世界に神の御国を準備することでしょうか？それとも、私たちは、主が私たちのために用意して下さった場所に、私たちを連れて行ってくださることを期待しているべきでしょうか。こう言う人もいます。「イエスご自身が祈りの中で、『御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも…』とされています」そうですけれど、2000年以上も前に、イエスはなぜこの地上で神の御国について説いていたんでしょう？彼は、今から2000年後には使徒の世代が出てきて、彼らが地上に神の御国をもたらす、とは言っていませんでした。イエスは、そのころでさえも神の国について語っていました。なぜですか？ルカの福音書17章20節から21節。

さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちに尋ねられたとき、イエスは答えて言われた。『神の国は、人の目で認められるようにしてくるものではありません。「そら、ここにある。」とか、「あそこにある。」とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。』

あなたがイエスを信じて、イエスがあなたの中におられる時、あなたには、すでに息子や娘としての身分があります。そして、あなたはすでに、主と共に統治することが約束されています。それは、私たちの中にあるのです。私たちは、ある場所を示したり、整えたりするものではありません。七つの山を占領して、主のために世界を準備するものではありません。違います。あなたには見えないのです。それは、あなたがたの中にあるのです。ガラテヤ書5章19節から21節。

肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、^{めいてい}酩酊、^{ゆうきょう}遊興、^{たくい}そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。

(ガラテヤ5章19節から21節)

彼は、私たちが主のために準備する地上の王国の話をしているわけではありません。神がイエスを再び連れて来られて、地上に王国を準備されるのです。私が聞いたのは…、この話を続けるのは、やめましょう。最後のスライドで締めくくります。みなさんが一度、聖書に戻って、それを全体として、その文脈の中で観察してみると、来たるべきことに関するあなたの理解は聖書的に正しいものとなり、新使徒改革のような偽りの教えに伴う失望や混乱で、裏切られることはありません。アポロ・クイボロイのような偽りの教えや、多くの偽りの教師や、偽りの使徒、偽りのメシア、偽りの油注がれた者などに。気をつけてください。霊を試してください。そして、いつも、必ず、御言葉をあなたの道の光としてください。

父なる神様、御言葉に感謝します。あなたの御言葉は真理です。その真理によって私たちを聖別してください。私たちがその道にいることに感謝します。そして今、あなたの御言葉によって、私たちは正しい道、正しい方向に進めます。お父様。二人の弟子が、自分たちがどれほど間違っていたかを理解したとき、彼らが待ったりしなかったことを感謝します。夜で、とても危険であったにも関わらず、彼らは向きを変えて、エルサレムに歩いて戻って行きました。自分たちの救いを確信して、聖書をしっかり理解して、勝利にあふれ、喜びとうれしさに満ち、彼らは「屋上の部屋」に戻って、自分たちが見たことを他の弟子たちと共有するのを待ちきれませんでした。だからお父様、もし私たちが道にありて、道から外れているなら、もし私たちが誰か他の人に従っていたら、もし私たちが間違った教義に従っていたら、もし私たちが本当に、もしかしたら無邪気に、ここにあなたの居場所を用意するのが私たちの役目だと考えたり、その準備をしたりしていたら、お父様、私たちを、あなたの御言葉に戻してください。あなたの約束に。そして、預言者たちが記し、語ったことすべてに連れ戻してください。私たちが、あなたの御言葉を省略したり、差し引いたり、消したり、足したりすることがありませんように。今朝、ダバオから、あなたの御名を祝福します。そして、あなたに感謝します。イスラエルの聖なるお方、王の王、主の主、神の小羊、ユダ族の獅子、インマヌエル、平和の君の御名において。サル・シャロームの御名において。私たちの救いであるイエシュア・ハ・マシアックの御名において。すべての名に勝る御名において。私たちが癒やされ、救われることのできる唯一のお方の御名において。イエスの御名において祈ります。

神の民は、皆 声をそろえて、アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.04.28 (Tue)